

# 主体的学びと学習環境

- 探究、プロジェクトを支援する環境とは -

日本の学校の主たる学習空間は教室である。一方、プロジェクト（Project-based Learning）をカリキュラムの中核におく海外のPBL校の一部には、教室は存在しない。教室は、基本的に「一人の教師が多くの生徒に対して学習内容を教授する」一斉授業のためにデザインされた機能的空間である。教える授業を前提とすれば、日本の教室（教え場）は、大変よくデザイン（日照、黒板、机、掲示板）されている。しかし、学校を「生徒が学ぶ空間（学び舎）」と見立て直してみると、また別の姿（意味）が見えてくる。

今回、革新的カリキュラムに挑戦されているドルトン東京学園（「自由」と「協働」を軸に生徒の個性を伸ばし、知的好奇心や探究心を湧き起こす学びを追求されている学校）をPBLメッセの会場とした。ドルトン学園の教育思想で目指されている「主体的学び」の概要をお聞きするとともに、そのためにデザインされた様々な学習空間（STEAM棟など）を見学させていただき、2つの講演とトークセッションを通じて、主体的学びを支援する（心理的、物理的）学習空間とはいかにあるべきかについて参加者と共に考えたい。

日時：2025年6月14日（土）13:30～17:00 （開場13:10）

場所：ドルトン東京学園

東京都調布市入間町二丁目28番20

小田急線『成城学園前駅』西口よりバス利用で約6分  
京王線『つつじヶ丘駅』南口よりバス利用で約12分



開会式 PBLアドバイザー 認定式

スクールツアー 安居長敏 校長

## 講演

東京電機大学 教授

広石 英記 PBLを支える学習環境とは

ドルトン東京学園 校長

安居 長敏 ドルトンの教育と学習環境

## トークセッション

パネリスト

安居 長敏 ドルトン東京学園 校長

広石 英記 東京電機大学 教授

布柴 達男 国際基督教大学 教授

犬飼 良成 学校法人SEiRYO学園理事長

